

臨床研修で県内初認定

県立中央病院 NPOが審査、評価

医学部卒業生の初期臨床研修に当たる県立中央病院(高松市番町)は5日までに、NPO法人卒後臨床研修評価機構(理事長・高久史磨自治医科大学長)の第三者評価を受け、県内初の「認定病院」に選ばれた。

臨床研修での細かな指導内容は病院によって異なり、一定水準確保のため同機構による第三者評価を受ける病院が全国で増えている。県立中央病院で準備に当たった大橋龍一郎外科部長は「優秀な医師を育てる上で臨床

研修は重要。第三者評価を活用して内容の改善充実を図りながら育成に努める」としている。「指導体制の確立」「臨床研修病院としての施設・設備の整備」など、8分野計123の項目について同

で全項目の80%以上に達し、同機構が3月に行った研修医や指導医らへの聞き取りなど現地調査もクリアした。

認定は1日付で、有効期間は2年間。都市部への医師偏在の現状

内容が改定され、7分野あった必修は内科、救急、地域医療に限定された。外科、小児科、産婦人科などは2分野選択となった。

ポイント

初期臨床研修 広い分野での基本的診療技術を習得させる狙いで2004年度に導入された。期間は2年で研修は義務。10年度から

を踏まえ、県内では医師定着が課題となっているが、県立中央病院事務局は「認定更新しながら、多くの研修医を呼び込みたい」と話している。

同機構によると、1日現在の認定数は県立中央病院を含め78。筑波大などの大学の病院のほか、自治体や民間が設立した病院が名を連ねている。四国4県と岡山県では徳島赤十字病院(徳島県小松島市)と民間の岡山中央病院(岡山市北区)が認定されている。
(白杵正純)

NPO法人

県立中央病院を県内初認定

臨床研修体制で評価

新人医師の育成のため、医学部を卒業した研修医を受け入れている県立中央病院（松本祐蔵院長）が、NPO法人「卒後臨床研修評価機構」（東京）から研修体制が充実していると評価され、認定病院に選ばれた。県内には臨床研修指定病院が11機関あるが、認定を受けたのは初。

認定の有無は、医学部生が研修病院を選択する際の一つの指標にもなる。2004年度に研修先を自由に選択できる「臨床研修制度」が導入されて以降、研修医の大都市圏への流出が進んでいるだけに、今回の認定

が県内の医師不足の解消につながることを期待されている。同機構は2007年に発足。医学部卒業生に義務付けられた臨床研修（2年間）の内容を充実させる目的で、研修医の受け入れ病院の評価を行っている。審査では、研修プログラムの内容や指導体制、研修医からの評価など123項目について、書類調査や現場での聞き取りを実施。同病院は8割以上が「適切」などと評価され、認定基準

をクリアした。認定は1日付、有効期間は2年。さらなる研修体制の充実を図りたい」と話している。

松本院長は「県の基幹病院として研修医の育成は重要な役目。1人でも多くの医師にきってもらえるよう、同機構によると、4月1日現在、全国で79病院を認定している。」